

日本映画衛星放送株式会社・第 29 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 24 年 9 月 11 日 (火) 15 時 ~ 16 時
2. 開催場所 : 東京都港区赤坂 2 - 17 - 22 赤坂ツインタワー東館 15 F
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 9 名 / 出席委員数 8 名
出席委員 (順不同、敬称略): 菊地 実・川本三郎・坂井保之・鈴木嘉一・曾根和子・
田保橋淳・鳥居美砂・西 正
欠席委員 (敬称略) : 石上三登志
放送事業者側出席者氏名 : 代表取締役社長 杉田成道
編成制作部部长 宮川朋之
編成制作部担当部長 澤 尚志
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題 (1) 審議事項

日本映画専門チャンネル 8 月放送、ドキュメント『天皇の世紀』、およびその解説オリジナル特番『ドキュメント“天皇の世紀”をドキュメントする』について。

(2) 報告事項

CS110 度上の時代劇専門チャンネルで、7 月より解説放送を開始したこと。

5. 議題 (1) 概要

日本映画専門チャンネルにて、2012 年 3 月よりスタートした伊丹十三監督映画を連続放送する特集「伊丹十三劇場」の特別企画として、8 月にドキュメント『天皇の世紀』(1973 年制作 全 26 回の TV ドキュメンタリー) を放送した。この企画は、時代劇専門チャンネルとの連動企画であり、時代劇専門チャンネルでは同じ大佛次郎による史伝を原作としたドラマ『天皇の世紀』(1971 年制作 全 13 話の TV ドラマ) を 8 月から放送した。ドキュメント『天皇の世紀』は、地上波放送時に革新的ドキュメンタリーとして脚光をあびた番組であり、TV 業界では伝説的作品。今回は BS・CS 初放送だった。

また、本ドキュメンタリーを放送するにあたり、解説のオリジナル特番を制作、放送した。日本映画専門チャンネルは、その名の通り、基本的には日本映画を放送するチャンネルだが、こうした番組と編成についてご審議いただき、今後のドキュメンタリー番組の編成について、参考とさせていただきたい。

6. 議題(1) 審議内容

- ・『天皇の世紀』は、地上波放送当時、日本のテレビ番組でこんなに面白いものがあるのか、と驚いた。「新鮮」という言葉に尽きた。映像作品は関連情報が非常に多い著作物。そうした情報はぜひ使うべきで、オリジナル特番を制作することは非常に良いこと。
- ・『天皇の世紀』は、非常に面白かった。ただ、第1回「福井の夜」は、前後の脈絡のないまま始まるので、オリジナル特番を見てから番組本編を見た方が分かりやすいと思う。
- ・時代の気分も若く、作り手も若く、二重三重の意味で『天皇の世紀』は、テレビの青春時代であり、自由を感じる。解説のオリジナル特番は、もっと良い番組ができたのではないか、と思うが、制作、放送できたこと自体は良かった。また、ドキュメンタリーについては、もっと放送すべきだと思う。コンテンツの幅は大事だ。
- ・歴史バラエティが好きだが、今ある番組の手法をドキュメント『天皇の世紀』で全部やっていたので、凄いと思う。オリジナル特番は、テレビ業界の内幕を描いていて、一般視聴者には分かりにくい。番組本編を見たいという訴求力をもっと兼ね備えるべきだ。
- ・現在 ENG のスタイルで作ったら、もっと違った作り方もあると思うが、それでもこれだけ新しいことができたことに改めて驚いた。手法として、技術として、面白いし、やり尽くしている感じがある。オリジナル番組については、確かに欠陥もあるが、この番組で『天皇の世紀』に対する理解が進むと思う。
- ・ドキュメント『天皇の世紀』を今回初めて見たが、すごく面白かった。伊丹十三の才能に圧倒された。こうした番組は、視聴者に良い印象を植えつけられるのではないか。
- ・冷静な時代になってこの番組を改めて見ると、驚き、立派だと思う。ただ、オリジナル特番は、昔のスタッフやキャストの同窓会に過ぎない。映画や映像作品はスクリーンを挟んだ別世界。別世界の奥を覗いてはいけない。
- ・伊丹さんがドキュメンタリーを作るとどうなるのか？という興味を、ドキュメント『天皇の世紀』には持てると思う。ただ、この番組をいきなり見たら、意味不明に感じるに違いない。そこで、オリジナル特番を見てから番組本編を見ると、理解が進むし、納得がいく。ただ、なんでもかんでもドキュメンタリーをやれば良いというものではない。

< 事業者回答 >

- ・ドキュメント『天皇の世紀』は、当時のテレビ業界の若手などに強いインパクトを与えた番組だった。番組本編を今見直しても、やはり圧倒的な力があると思う。オリジナル特番は、ナビゲーションとして、もう少し丁寧にやり、「伊丹十三劇場」との関連性も、もっと分かりやすくすべきだった。
- ・オリジナル番組については、確かに同窓会のような番組になってしまった。最初の段階で面白いと思ったことと、でき上がった番組の違いを、若いスタッフを含めて反省した。狙いの変化していく過程で楔を打ち、丁寧にやるべきだった。

7. 報告事項

BS 放送および東経 110 度 CS 放送は衛星基幹放送であり、わたくしどもはその重要性を自覚し、聴覚障がいの方や耳が遠くなった方にも放送を楽しんでいただくという主旨で、現在字幕放送を実施している。一方、視覚障がいをお持ちの方も生活の中心にはテレビがあり、様々な情報を得ている。そうした目の不自由な方のためにも、放送サービスをお届けするというのが総務省の方針でもあり、時代劇専門チャンネルも、110 度 CS 放送のみだが、2012 年 7 月より、月に 1 番組のペースで解説放送を始めた。

8. その他参考事項：次回番組審議委員会は、2012 年 11 月 13 日開催。

(以上)